

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0670400738		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成30年12月18日	開設年月日	平成15年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝ラジオ体操・リハビリ体操を行い、大好きな歌を歌っています。出来る方には、洗濯物干しやたたみ方、食器拭き等家事を行って頂いています。月に1回外出や外食をし、季節を感じて頂けるようにしています。イベントには、ご家族様をお呼びして、手作りのお弁当やボランティアの余興を楽しんでいます。食事は皆様の希望を聞きながら季節の食材等を使用し、郷土料理や慣わしごと、行事にあった料理の提供し御利用者さまには好評ですが、いかに美味しい料理を食べて頂く日々検討しています。レクでは、壁飾りを作成したりカルタや風船パレー、ゲーム等を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールでお茶を飲みながら皆で団欒を楽しみ、毎日が利用者のペースでゆっくりと時間が流れています。いつまでも自分らしく在宅と変わらない姿を維持するために体操や歩行訓練、家事などを日課とし訪問診療で健康管理にも気をつけて家族からも喜ばれています。「ちょっと出かけていいか」「いいですよ」そうした会話が自然に交われ、グループホームならではの家庭的で自由な生活を職員は笑顔で見守りサポートしています。毎月の外食や外出、美味しい食事、ボランティアとの交流など楽しみ事をエネルギーにして利用者・家族・職員 皆仲良く互いに支え合いながら、理念の「自由で楽しくゆっくりと」を実践している事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 31 年 1 月 23 日	評価結果決定日	平成 31年 2月 18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、厨房に掲示しており毎朝朝礼で唱和している。ケア会議等でも職員全員で唱和し、実践に繋げている。	新管理者のもと理念の他にスローガンを掲げ、笑顔ある事業所をめざし日々取り組んでいる。ラジオ体操を日課に皆で大好きな歌を唄ったり美味しい食事や外出などを楽しみ事にして自由に楽しくゆっくりとした生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーより食材を購入したり、利用者様と共に近くの公園に出掛け、地域の方と会話お楽しみ散歩する機会を作っている。	近隣の方とは日頃から清掃活動や散歩時に挨拶を交わすなど馴染みの関係となり、地域の夏祭りには利用者と一緒に出かけ交流を楽しんでいる。運営推進会議や回覧板を通して情報を共有し災害時の協力要請をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方に日常的に挨拶を行い、日常会話の中で質問があれば認知症についてお話させて頂いている。運営推進会議においても、折に触れて認知症のお話をさせて頂き理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現在の事業所の取組みや状況を報告し、参加者に意見を頂きながらサービス向上に努めている。	家族全員に参加を呼びかけ皆のいるホールで開催している。利用者もメンバーに入り、現況や活動内容を報告して、職員研修(感染症・認知症についてなど)や毎月のテーマに沿って話し合い、身体拘束検討委員会も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、市担当者に出席頂き、ケアサービスの取組みを伝えたり、分からないことを等のアドバイスを頂いている。	行政には運営推進会議に出席してもらい、事例をあげてのアドバイスや事業所の取組みに理解をもらっている。介護相談員も訪れお茶を飲みながら利用者の話し相手になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当初より玄関の鍵の施錠をしない取組みをしてきた。現在は、防犯の為、夜8時に閉め朝8時には開けている。身体拘束については、社内研修で学習しており、職員全員が理解しケアに当たっている。	毎月のケア会議で周知を図ると共に言葉の拘束においても皆で注意し合える環境を心がけている。「ちょっと出かけてきていいか」と言う利用者には「いいですよ」と制止せずそっと付いていくなど自由な生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待について職員全員が学ぶ機会を設けている。入浴の際に必ずボディチェックを行い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修を受け、その制度を活用できるよう支援しているが、家族からの理解が得られない事がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明している。特に入所や退所する際の注意点やリスクについては、詳しく説明した上で同意している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催、玄関に「代表者への手紙」を設置し意見や要望を出せる環境作りに努め、すぐ改善できるよう会議で話し合いを設け運営に反映させている。イベント参加時に、意見、要望を聞ける機会を設けている。家族の参加は少ないが、参加して頂ける様声がけをしている。	敬老会とクリスマス会では家族等を手作りのご馳走でもてなし、毎月のふいりあ通信に沢山の活動写真や担当からのコメントを載せて情報を共有し信頼関係を深めている。利用者からの要望にも可能な限り応えている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、毎月のケア会議では職員全員が発言出来るようにしている。又、発言した職員の意見、提案を話し合うようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年個別面談の機会を設け、各自の希望等、会社としての期待等を話し合っている。個人の力が十分発揮でき、向上出来るよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修に職員全員参加する様にしている。機会があれば外部研修にも参加出来るように配慮している。	年間計画で実施している毎月の法人内研修は2日間行いどちらかに必ず参加できるようにしており、職員は運営推進会議の場で発表して自身のスキルアップも図っている。	年間行われる外部研修の情報を収集して受講を奨励し、他事業所との交流や見聞を広げる機会を持つことに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加する機会を設け、他事業所の方との交流を図っている。参加によってサービスの質の向上に努めている。	グループホーム連絡協議会に管理者が参加し同業者と交流を図りながらサービスの質向上に取り組んでいる。職員はケアマネ研修や医療機関の研修会に参加して他事業所との交流の場になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用をする前にご本人と面談し、要望や生活習慣を把握し不安などに対し十分話し合い、受け入れてもらえるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族様の要望や不安などを聞き、思いに添ったサービスや対応が出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、実情など、今のような支援が必要なのか、職員で話し合い見極めてサービスに繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物干しや、たたみ方、掃除等、ご本人が出来る事や以前から行っていた事をご家族から話を聞きながら行っている。お互いに感謝の言葉が出てくるような環境作りを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、一緒にお茶を飲んで頂き、他利用者様とも会話をして頂いている。行事に参加して頂き、進んでお手伝いしてをいて下さり職員も支えて頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の方には、行きたい所や思い出の場所等をお聞きしながら出掛けられるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に楽しく過ごせるようにレクを行っている。職員同士での情報の共有や、利用者様同士の中に入り一緒に会話をし関係性の強化に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方やご家族にもいつでも立ち寄って頂けるように声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添う時間を大切にしている。利用者様とのコミュニケーションの中で、表情言葉をよく観察しケア会議等で把握出来るように努めている。	お茶を飲みながらの何気ない会話の中から利用者の思いを汲みとり、笑顔の対応でコミュニケーションがとれるよう心がけている。レクリエーションも無理強いせず、本人のペースに合わせた自由な暮らし方を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際プライバシーに配慮した生活歴等をお聞きしている。入居後は関わりの中でご本人やご家族様にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活で利用者様一人ひとりの心身状態を観察している。本人の出来る力を引き出せるように心掛けている。職員全員が共有出来るようにケア会議で話合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で御利用者様の生活状態、健康状態、精神面について話し合っている。ご家族様、ご本人、主治医の意見を取り入れて、計画作成を行っている。	個人記録を基に利用者一人ひとりの状態を皆で話し合い、希望に沿った暮らし方をめざして介護計画を作成している。定期的な往診で医師のアドバイスを受けながら、体操や家事などをプランに取り入れて健康と機能の維持に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に常時話し合いながら、ケア会議にて気づき、工夫等を共有し、統一したケアが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。散歩に出掛ける際に気軽に声を掛けて頂けるような環境作りに努めている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医には月2, 3回の往診に来て頂いている。利用者様について気付いた事や、変化があれば電話相談をし情報を共有している。	24時間連絡可能な協力医の定期的な往診がありほとんどの利用者がかかりつけ医としているが、家族の付き添いで協力医以外に通院する方もおり自由に選ぶことができる。受診結果は家族と職員間で共有して希望に沿った医療支援を行っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がない為、利用者様について、気付いた事や変化があれば、かかりつけ医に相談しアドバイスを受けている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに伺い、退院に向けての面談、退院後の留意点等を詳しく説明を受けるようにしている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所側で対応できるケアを入居時にご家族様に説明している。	入居時に利用者と家族に看取りができないことを説明して理解を得ている。入浴が困難になるなどグループホームでの生活が難しくなった場合、家族と話し合い入院や他施設を紹介するなど、出来る限りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けており、急変対応マニュアルなども活用している。社内研修においても研修課題となっており、全職員が受ける体制になっている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、消防署の方々に指導を受け、御利用者様にも参加して頂いている。誘導の方法避難経路など、全職員で確認している。終了後、防災業者、消防署の方々に講評を頂いている。	消防署や防災業者の立ち合いで利用者も参加して災害時の通報や避難、誘導などの訓練を行っている。普段からヘルメットを各居室の壁に掛け、玄関に非常持ち出しのリュックサックを準備して有事に備えている。	消防署の講評と訓練時に得た反省点を活かし、今後の取り組みに反映させると共に、非常持ち出しに利用者の情報も加えられる事を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護に努めている。日々の関わりの中でのご利用者様の誇りやプライバシーを傷付けないように、言葉使い、態度には十分気をつけている。接遇研修等を受けている。	接遇委員会を中心に毎月の接遇目標を掲げ意識向上を図っている。常に利用者を人生の先輩として敬いながら言葉遣いに留意して、なじみ深い方言を効果的に織り交ぜるなど、敬意を払いつつ温かい雰囲気の中で暮らせるよう心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択枠を提案し自己決定出来るように心掛けている。意思表示が出来ない方であっても、表情、全身の反応を確認し、本人を把握する努力をしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としての流れはあるが時間の区別はなく、ご利用者様のペースに合わせている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えをご利用者様に選んで頂いている。外出時は特に希望をお聞きしながら、おしゃれを楽しんで頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に何が食べたいか聞きながら栄養バランスを考慮し、提供している。季節の食材も取り入れている。職員も共に同じテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。	職員が交替で買い物や調理を担当して、出来たてを皆で会話をしながら一緒に食べ大家族のような食事風景となっている。季節行事の笹巻きやぼた餅、正月の餅つきなどは利用者が主役として活躍し、つくたての餅は何よりも喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に水分接種量、食事量を記入して把握している。ご本人の嗜好や生活習慣、身体機能に合わせた飲み物を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい歯磨きの声掛けをしている。一人ひとりの状態に合わせて口腔内洗浄・義歯洗浄をのケアを行い清潔を保っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握して声がかけて誘導している。排泄行為を活用し、下肢筋力強化ADLの向上に努めている。	自立排泄の方が多く、食事やおやつ前に声がかけて失敗が無いように心がけ、注意深く排泄チェック表の記録をしている。声がかけて誘導は周りに気づかれないように小さい声で行い羞恥心に配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らず繊維質の物をメニューに取り入れたり、毎朝手作りヨーグルトを提供している。水分を取り毎朝ラジオ体操、リハビリ体操を行い体を動かして頂いている。氷水の提供もしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の目安で入浴を行っている。ご本人の希望に合わせてゆっくり入浴して頂ける様に時間や順番に配慮している。	安全面からも必ず職員の見守り介助で入浴し、車椅子の方は2人介助でシャワー浴を行い、みんながゆったり温まり「気持ち良かった」の声が聞かれている。時にはゆず湯や菖蒲湯、入浴剤で変化を楽しんでいる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や体調に考慮しながら、午睡の声掛けを行っている。午睡されない方は、ホールにて職員と過ごして頂く等、個人に合わせて対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用している。職員全員で確認・理解し、症状の変化の確認に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個人の得意分野、好きな事を尊重し、役割を見つけ力を発揮できるよう支援をしている。また、感謝の言葉や労いの気持ちを伝えている。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>月に1回、車で外出、外食を行い気分転換や季節を感じて頂いている。近くの公園への散歩や地域の行事にも積極的に参加し、外出の機会を作っている。</p>	<p>毎月車で外出は花の名所や話題の場所を選び季節の移ろいを感じてもらい、レストランや回転すしでランチを摂り楽しい1日を過ごしている。天気の良い日の散歩もストレス発散の良い機会となり、穏やかな暮らしに繋がっている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時の支払いの際には預かり金を渡し、出来るだけ本人に支払って頂く様に支援している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自由に電話は使用出来るようにしている。希望があれば、いつでも対応できる状態になっている。手紙のやり取りを行っている方は現在いないが、希望があれば、対応出来る。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには皆様に楽しんだ、思い出の写真を掲示している。また、皆様が行った塗り絵や季節の壁飾りも、掲示している。イベント時はホールを飾りつけし、季節を感じて頂いている。</p>	<p>ホールで1日を過ごす方が多く、体操や歌などレクリエーションで楽しみながら脳と体のトレーニングを行い賑やかに過ごしている。また手すりなど手を触れやすい場所を毎日消毒液で拭き、感染症予防に努めている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関と廊下に椅子を置いている。気の合う方と雑談したり、お一人でゆっくり過ごせるスペースを確保している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所頂く際、居室には今まで使用してきた馴染みの物や思い出のあるものを、持ってきて頂くようお話している。ご本人にとって落ち着いて過ごせる居室になる様、ご家族様と相談し協力を得ている。</p>	<p>居室にはクローゼットが備えてあり、ベッドは事業所で準備した物もあるが他の家具と共に持ち込み自由とし、居心地良く過ごせるよう心がけている。利用者によっては仏壇に毎日水を供えるなど、思い思いの生活をしている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関・トイレ・廊下・浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。居室内の動線の確保に対応出来るよう、整理整頓を行っている。</p>	/	/	